

## 狭山の元気 発見

# 躍

いきいき狭山人  
ひと

イギリスやハンガリーなど世界を舞台に演奏活動を展開しています

今回ご紹介する志茂征彦さんは、クラシック音楽のピアニストとして、数々の

クラシックピアノの美しい音色に、多くの人びとが魅了され続けています。

### ピアノで描く多彩な音色と幅広い表現力でクラシック音楽の素晴らしさを多くの人に伝えていきたい

ソロ演奏のほか、室内楽や歌曲伴奏を手がけるなど、幅広い分野で活動する音楽家として注目されています。

志茂さんがピアノを始めたのは4歳のころでした。父親は画家、母親はピアノ教師という芸術一家に育ち、幼いころから音楽教育を受ける中で、その才能と感性は開花していきました。「毎日、厳しい練習が続き、もう今日でピアノをやめてしまいたいと思っ

コンクールのピアノ部門で第2位に入賞。16年に、東京でデビューコンサートを行ってから本格的な演奏活動に入りました。

現在では、国内各地でコンサートを開くほか、ヨーロッパを舞台にヴァイオリン、フルートなどの有名奏者と共演するなど、アジア出身のピアニストとして、海外でも高い評価を得ています。



リハーサルも真剣そのもの。しだいにピアノと一体となっていくます

### ピアニスト

まさひこ 志茂征彦さん(笹井在住)



たことがあります。でもなぜか翌日になると、またピアノの前に座っていました。すでに自分とピアノは切っても切れない関係になっていたのだと思います」と語る志茂さんは、6歳で初ステージを踏み、研鑽を積み重ね、ハンガリーやイギリスに留学してクラシック音楽の本場、ヨーロッパに身を置きます。

平成2年には、若手音楽家の登竜門といわれる日本音楽

んとクラシック音楽を結ぶ懸け橋として役に立てられたいです」と強調します。

10月には、市内でヴァイオリン二ストの妹、美都世さんと共演のコンサートも予定されていて、「地元の狭山市で公演ができるのは本当にうれしいことです。私たちの演奏を聴いていただくことで、市民の皆さんがクラシック音楽に親しみを持っていたただけるように頑張りたい」と力強く抱負を語る志茂さん。

これからも日本、そして世界を舞台に幅広い活躍が期待されます。

# オピニオン

## 高齢者が元気でいられるために



増淵セツさん  
(南入曽在住)

私は、公民館が大好きで、現在、卓球や絵手紙などのサークルに入っています。公民館とかかわりを持つようになったのは、13年前に健康体操講座を受講したのがきっかけで、こんな身近なところに楽しく学ぶことができ、新たな友人を作れる場所があることを知り、とてもうれしくなりました。その後、絵手紙や布ぞうり作りなどの講座を受講し、今は日本絵手紙協会の公認講師をしています。

これからは、高齢社会、超高齢社会の時代です。とかく家にいることが多くなりがちな年齢の方が、今後ますます増えていくわけですが、いつまでも、心身ともに元気で、若々しくいるためには、外に出て多くの友人を作り、新鮮な刺激を受けることが必要だと思えます。そのためにも、高齢者が活躍できるさまざまな場を提供していただきたいのです。すでに実施されていますが、高齢者の持っている知恵や技術を小中学校で教えたり、夏休みなどに、公民館に子ども達のための講座を開いて還元してもらおうなど、高齢者をどんどん活用してください。こうした取り組みから、「元気な狭山」ができていくと思います。

### 市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。

市では、高齢者団体によるスポーツ大会や芸能発表、高齢者の生き方をテーマとした講演会の実施など、各団体の特色を生かした活動に対し、さまざまな支援を行っています。今後も、高齢者の生きがいづくりと活動への支援を進めていくとともに、高齢者の持っている知恵や経験を地域に生かせる仕組みづくりに努めてまいります。

担当 高齢者支援課

皆さんの「声」をお待ちしています。  
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)  
✉koho@city.sayama.saitama.jp

問合せ山下照子さんへ  
2952 2918

25年を記念した、奥富エコーズ・夏空コンサートを、所沢ミューズのキューブホールで開催し、多くの方から温かい声援をいただきました。  
どのような形であれ、聞く人に感動や勇気を与えることができれば、サークルとして活動し続ける力にもつながっていきます。これからも、私たちの自己満足に終わることなく、いただいた声援を、社会貢献という形で恩返ししていければと思っています。

私の宝物 ...

## 私が生きていく心の支えです

私たちの世代はつらい戦争を体験し、幸運にも生きのびることができて、今があります。私はその授かった人生の中で、多くのひととの出会いの大切さを何かに表したい気持ちから短歌に関心を持つようになり、3年前には歌集を出版することができました。



栗村喜代子さん  
(青柳在住)

すると私の本を読んでいただいた方が、私の歌を入れた陶器を焼いてくださったのです。



歌集と陶器のお皿  
は人生の集約です

同じ時代に生き、歌集に共感されて作られたことを思うと、この陶器は私のこれからの人生の大きな励みになり、心を支えてくれる大切な宝物です。

今回は水野にお住まいの方をご紹介します。

# Hello ハロー 仲間たち

Vol.336



## 奥富エコーズ

発表会だけでなく病院での慰問活動も積極的に行います

私たち奥富エコーズは、女声で奏でるコーラスのサークルです。昭和61年に発足し、現在、30代から70代の会員16名が毎週木曜日、奥富公民館に集まり活動しています。

私たちのコーラスは、発声練習などの基本も大切にしていますが、お腹から声を出すことと、歌詞の言葉一つひとつを大切に歌うことを特に心がけています。そうすることで、会員一人ひとりが楽曲に対して一つになり、集中してコーラスを楽しむことができます。  
この7月には、サークル発足25年を記念した、奥富エコーズ・夏空コンサートを、所沢ミューズのキューブホールで開催し、多くの方から温かい声援をいただきました。